第6学年 国語科学習指導案

活動日 平成14年 2月16日
 授業者 宮川 浩司
 活動場所 6年3組教室(校舎4階西)

1. 単元名 卒業を前にして「思い出をシナリオに」 (全7時間)

2. 単元について

児童たちは、卒業時に保護者と一緒にこの1年間の出来事を振り返る。本単元では、その振り返りをするための資料となるスライドを作成したり、映像・写真に合わせてシナリオを書き、豊かに表現したりすることをねらいとする。そのため、特に文字言語の領域では、「考えた事や自分の意図が分かるように話の組み立てを工夫すること」を、音声言語の領域では、「目的や場に応じた適切な言葉遣いで効果的に話すこと」にこだわった学習をしていきたい。

児童たちは、国語の学習で様々な伝え方を学んできた。書く活動では、様々な形態の文章を書く学習の中でシナリオを書くことも経験している。また、児童たちは、話したり読んだりする活動の中でも実況中継のシナリオを考え、自分がナレーターになり伝えることも何度か経験してきた。そして、そのナレーションが効果的な話し方となるために、デジタル録音した自分の声の自己評価や仲間同士での相互評価を行い、声に表情を作る工夫をしてきた。

そこで、この単元の文字言語領域の学習では、「その時の情景や気持ちが伝わるような文章とするために、シナリオの推敲を児童相互で話し合いながら行う。」ことを、また、音声言語領域の学習では、「シナリオに『声の表情』を入れるため、声の自己評価を積極的に行う。」ことを大切にしていきたい。

3. 願う子どもの姿

1年間の中で印象深い経験をスライドにするために、その解説のシナリオを書くことができる。そして、仲間との話し合いや練習の過程で文章を練り、その時の気持ちや様子が声の表情として表れるように話すことができる。

4. 研究内容との関わり

研究内容 に関わって (基礎・基本を確立するための、情報カリキュラムにのっとった単元指導計画の在り方)

児童が作成していく音声データやスライドといったコンテンツを授業の導入時に聞き合うことで、本時に高めていく自分の姿(課題)を具体的な姿としてとらえさせる。

研究内容 に関わって (基礎・基本の力をつける学習活動の在り方)

みんなで一つのスライドを作成するという立場を大切にすることで、仲間同士の練り合いの場を大切にする。

研究内容 に関わって (基礎・基本の定着を図る自己評価の在り方)

デジタル化された自らの声を自己評価や相互評価をすることで、声の表情を正確にとらえ、効果的な伝え方を考えられるようにする。

5. 単元指導計画

		ね ら い	主 な 学 習 活 動	自 ら 学 ぶ 姿
第 一 次	1	・1年間の中で印象深い経験をスライドにするための全体構想を考えることができる。	・どのようなスライドにしたいのかを話し合い、全体構想を作る。	シナリオの全体構想作りに協力することができる。
第 二 次	2 ・ 3	・1年間の中で印象深い経験をスライドにするために、その解説のシナリオを書き表し、仲間との話し合いで推敲をすることができる。	・自分の受け持った場面のシナリオを作成する。 ・仲間とシナリオを推敲し合っ て場面と場面をつなぐ。	思い出の場面をシナリオに書くことができる。 思い出の作品となるように話し合い、推敲することができる。
第 三 次	4 本 時 7	・1年間の中で印象深い経験をスライドにするために、話し合いや練習の過程で、その時の気持ちや様子が「声の表情」として表せるように工夫をすることができる。	・自分の担当場面の読みの練習をする。 ・自分の読みを自己評価し、仲間と「声の表情」が出るように話し合う。	自分の声を何度も聞き、声に表情を加えることができる。 声の表情を工夫するために、何度も練習をすることができる。

6. 本時の目標 (5 / 7)

思い出のスライドを、音声の強弱や間の取り方といった「声の表情」の表現効果を生かしたナレーションをつけることにより、保護者や自分自身が感動できるようなものになるように工夫をすることができる。

7. 本時の評価規準

話すこと・聞くこと	思い出の画像に合わせたナレーションを、音声による表現効果（強弱・間の取り方）を生かして考えることができる。
-----------	---

8. 本時の展開

段階	学 習 活 動	研究に関わって 資料 評価 支援
つかむ	<p>1. 全員でナレーションを視聴し、よさや改善点を出し合う。</p> <p>感情が強く表れる部分は、声の強弱があつてすごくいい。 ナレーションと会話の部分の声の質に変化があつて聞きやすい。 場面に合わせてわざと声の大きさを押さえてある。 スライドごとに言葉と言葉の間の取り方がいい。 その時の気持ちをもっと出せるように声を出したい。 速さに気をつけたい。</p>	<p>前時までに作成した音声付デジタルスライド 自分たちのナレーションのよさや改善点について話し合うことができる。 出された意見の部分を再現し、声の表情を確認する。</p>
ふかめる	<p>2. 本時の課題を確認し、班でナレーションの練習をする。</p> <div style="border: 2px solid black; padding: 5px;"> <p>声の強弱や間の取り方といった声の表情を考えることで、みんなが感動するようなスライドになるように工夫しよう。</p> </div> <p>シナリオにト書きを入れ、話し合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> その場面では、ぼくのうれしさいっぱいの気持ちを表現したいから、明るい声に変えて読みたい。 この場面はしみりとした気持ちを出したいから、小さな声でゆっくり読みたい。 この場面ではたくさんの人の思いが込められているから、複数の人で読みたい。 全体としてはテンポよく読んでいくが、この言葉だけはゆっくり読んだほうがいい。 <p>グループで読み合いをしながら、話し合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ナレーションはもっとゆっくり読んだ方がいい。 声を響かせるタイミングが難しいから考えてみよう。 さんのあの のような読み方は素晴らしいのでみんなもまねよう。 私は悲しい気持ちを表すためにゆっくり読んでいるけど、前後を読むAさんとBさんもつながるようにしなくてはいけない。 	<p>ト書きのできる写真付シナリオ 声の表情を付けたい部分にト書きを入れて、班内で伝え合うことができる。 仲間のト書きと自分のト書きを比べたり、前後の関係をふまえて声の表情をそろえたりできる。 自分のト書きを話すだけでなく仲間と読み方について練り合うように、班の司会者を指導する。</p> <p>必要に応じて録音 自己評価をさせる。 声の表情を自己評価をして、ナレーション練習に生かすことができる。 班内で相互評価をしながらも、必要に応じて録音ができる環境を作る。</p>
まとめる	<p>3. 今日の成果を評価し合う。</p> <p>代表のナレーションを聞き合い、よさや改善点を出し合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> 場面と場面の間の取り方が絶妙だから、そのときの状況が伝わってくる。 さんの××の場面での読み方は声に さんのうれしい感情がこもっていて、そのときの情景を思い起こさせる。 のような感情をこめた言葉を強調させたい。 	<p>代表ナレーションの音声データ ナレーションの声の表情について意見を持つことができる。 出された部分を再現し、声の表情を確認する。</p>

まとめをかこむ